

まとめ

矢部川をつなぐ会は、「矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、流域で活動している団体および行政・企業のネットワークを形成し、実践活動を行う。」を目的として、平成17（2005）年11月26日発足したNPOである。今までの大きな事業は、年1回の流域全体のゴミ調査・川の汚染状況調査（平成18（2006）～平成20（2008）年）と、フットパス・ゆつら一つとやべがわの設定（1箇所）である。

矢部川をもっと広く知ってもらい、多くの人に足を運んでもらって、流域の景観・遺産や文化財、自然環境の素晴らしさに触れてもらおうという活動を始めた期を合わせる様に、平成19（2007）年・県都市計画課が初めての景観保全事業に矢部川流域を選定「矢部川流域景観協議会」が発足し、そのメンバーとなって、矢部川についての提言などを行ってきた。

その後、平成20（2008）年度から新しく県NPOとの協働事業・による県民サービス向上事業が始まり、時期尚早の感もあったが、矢部川流域の景観を守りたい気持ちが強く「矢部川流域景観保全プロジェクト」として応募し、受託した。

我々が、この事業を進めるに当たり、基本理念としたのは、

- 1、地元発で進めよう。
- 2、自分たちも楽しみながらやろう。である。

具体的には「矢部川流域景観保全プロジェクト」優れた景観を守り・育て・次世代につなぐために

- 1、景観ルールをつくる（ビューポイント、樹木の指定・管理、景観パトロール）
- 2、担い手を増やす（フィールドワーク・楽校参加者から）

が重要であるとして、みつつのフィールドワークと地元講座を企画した。

初めて取り組んだ「フィールドワークと地元講座」は、不慣れなこと、張り切っている計画しすぎてスケジュール的に厳しいものになったこと、スタッフ不足もあって遣り残したこともあったが、ほぼ計画通りに実施出来た。

「矢部川について新しい発見があった」「もっと地元について学ぶ必要があると感じた」など、好評であったことは、大きな自信となった。今後もフィールドワークと地元講座を通じて人材の育成と確保を継続して進めたい。

また、情報発信については、ホームページ・ブログを開設し、事業・催し案内や、流域内の情報の収集にも努めた。これらの情報を今後に生かし、更に多くの情報を発信し、多くの方に足を運んでもらう様、きめ細かな対応を進めてゆく。

このプロジェクトの取り組みにあたり、県NPOボランティアセンターを始め、筑後広域圏事業に関わられている県職、流域市町村の担当の方々、特に福岡県建築都市部都市計画課には担当部署として休日も厭わず参加頂き、いろいろと親身に指導、協力頂いた。深く感謝したい。

また、快く講師を引き受けて頂いた皆さんには、お礼とともに、今後も「やべがわびと」としての活動と協力をお願いしたい。

最後に、裏方として支え、協力頂いた矢部川をつなぐ会構成団体の皆さんにも、厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 3 月 31 日
景観プロジェクトスタッフ